

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価の掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。
②①に基づく取組み結果	継続的に講習会を実施することができた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図(対象をどうするのか)	市民に心肺蘇生法、AEDの使用法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当が出来るようになる。
②事務事業の概要	救急車が到着するまでの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により実施方法の変更講習項目が細分化され、今後さらなる受講者数の増加が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	市広報紙、ホームページ等で地域住民に参加を呼びかけ、消防本部で普通救命講習Ⅰ(一般市民向け:成人を対象)・Ⅱ(一定頻度者向け:成人を対象)・Ⅲ(一般市民向け:小児・乳児を対象)を48回実施し、667人が参加、また上級救命講習(一般市民向け:成人・小児・乳児を対象)を2回実施し、30人が参加した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	普通救命講習修了者数	823	590	697	人	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	15,849	13,488	金額(千円)		内容	13,417	
国支出金(千円)			2,145		救急活動消耗品		
県支出金(千円)			2,669		特定行為指示指導等負担金		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	15,849	13,488				13,417	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	継続的に講習会を開催し修了者を増やしているが、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することが安全に暮らせる社会に繋がる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
		0	当初		0	H25からの繰越
			H25⇒26繰越			
②計画に対する事業実績						
③達成状況					現年分	
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	松本禎久			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	火災予防啓発活動と消防団装備品の充実強化を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	消防団員の環境整備として処遇強化に取組み、団員確保のための広報活動等の拡充を図る。
②①に基づく取組み結果	各イベントを活用し、団活動PRにより、広く広報した。また、消防団装備品整備事業を後期基本計画第3次実施計画に計上し、計画的な整備事業として位置付けた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団施設 消防団車両、装備品	意図(対象をどうするのか)	消防団の運営管理として、人員及び施設、装備品等を維持管理する。
②事務事業の概要	各種災害に出動して中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、取り巻く環境を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	産業・就業構造の変化等による被雇用者(サラリーマン)の増加と若年層の流出、また、消防団員の高齢化がさらに進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	消防広場、防災訓練において消防団PRを実施した他、女性消防団員の採用により消防団の充実強化を図り、消防団装備品の計画的整備に着手した。 また、施設点検の結果に基づき、消防団詰所の修繕を行った。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	97	97	93.4	%	業務取得
	ii	機械器具点検人員	480	480	480	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	22,719	24,039	金額(千円)	内容		29,137	
国支出金(千円)			5,400	消防団員報酬			
県支出金(千円)			5,923	費用弁償			
市債その他(千円)			926	健康診断手数料			
一般財源(千円)	22,719	24,039				29,137	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	危機管理体制や地域防災力の向上など、防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、更に高まると予測できるため、継続して行う必要がある事業である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H24⇒25繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成26年度への繰越額(単位:千円)					